

MIYAGI

きょうこう通信

vol.36

2024年 向春発行

弘済会は教育環境整備のお手伝いとして、
今年度も多様な「教育振興事業」を実施しています。

へき地学校教育支援事業

「へき地学校教育支援事業」においては、交通など諸条件に恵まれない山間地や離島等の小学校25校、中学校11校、合計36校を対象に、学校の教育内容や方法、環境を充実させるために各5万円の助成を行いました。

今回は、助成対象校の一つである七ヶ宿町立七ヶ宿小学校を紹介します。

七ヶ宿小学校は、平成26年4月に旧関小学校と旧湯原小学校が統合し、新設された七ヶ宿町唯一の小学校です。学校教育目標『かしこく やさしく たくましい児童の育成～確かな学力と豊かな人間性を身に付け、ふるさと七ヶ宿町を愛し、夢と志をもってたくましく生きる児童の育成～』を家庭、地域住民らと共有し、コミュニティ・スクール制度を活かしながら「地域と共にある学校」を目指して教育活動を展開しています。

特色ある活動として、全校児童で取り組む蛤山登山やグラウンド・ゴルフ大会、町行事の「わらじで歩こう七ヶ宿」や「町民体育大会」への参加。更に、冬季には全校児童がアルペンスキーに取り組み、町のスキ大会に参加していることも大きな特徴です。また、学年ごとの総合的な学習の時間では、「笹巻づくり」や「そば作り」「七ヶ宿源流米づくり」「源流太鼓」など、地域の方々の協力をいただいて七ヶ宿町ならではの体験活動を行っています。



約8キロを歩く蛤山登山



地域と協働した体育大会



源流米（やまのしづく）の刈り取り



公益財団法人 日本教育公務員弘済会宮城支部

Webサイト

日教弘 宮城支部

検索

<https://nikkyoko-miyagishibu.jp/>

奨学事業

日本教育公務員弘済会では、将来を担う子どもたちの学習環境の向上を支援し、安心して学校生活に打ち込めるよう貸与及び給付奨学生事業を行っています。今年度は、大学等への進学者31名に対して最大100万円を貸与し、高校及び特別支援学校在学生に対する給付奨学生事業では37校137名に奨学生を給付しました。また、2023年度から事業を開始した、大学での4年間、月額3万円を給付する大学給付奨学生事業については、2023年度の対象者5名に対して給付を開始し、さらに2024年度対象の奨学生5名を決定しました。

ここでは、今年度給付奨学生を受け取った高校・特別支援学校の皆さまからいただいた感謝の声を紹介します。奨学生を受けられた皆さまが、これから学校生活をさらに充実させることを祈念しています。

私は父子家庭で育ち、高校生ながら家庭や将来のことについて心配していました。今回、高等学校給付奨学生に採用していただけたことにより、安心して勉強に励むことができるようになりました。その結果、もともと得意であった国語の科目においては前回の考査より好成績を収め、英語では高校生活における最高点を取ることができました。さらに苦手であった数学でも成績が向上しました。奨学生を給付していただいて以降、勉強に専念することができるようになり、生活面で抱えていた不安も軽減されました。これからもしっかり勉学に励んでまいります。(A高 3年)

病気や怪我で苦しむ人達の身体的・精神的ケアをする母に、心の底から強い憧れをもち、私も将来は看護の道を歩もうと考えています。普段の学校生活で、医療系がイダンスやボランティアに積極的に参加し、将来なりたい姿がより明確になりました。看護師になるためにはこれからも勉強を続けていく必要があり不安もありますが、困っている人、苦しんでいる人の支えになれるように、これからも頑張っていきたいです。奨学生の給付、本当にありがとうございました。母のような優しく寛大な看護師を目指して学業に励みます。(B高 2年)



2024年度貸与奨学生の募集をまもなく開始します 無利息 上限100万円 全額一括交付 教弘保険未加入者も対象

募集期間

■第Ⅰ期 2024年2月1日(木)～3月29日(金)必着

■第Ⅱ期 2024年4月1日(月)～5月24日(金)必着

※詳細は宮城支部Webサイトでご確認ください。お問合せは、教弘担当LCまたは弘済会までお願いします。

教育研究大会助成事業

教育の振興と教職員の資質向上をめざし、様々な教育研究大会が開催されています。弘済会宮城支部では、県内で開催される全国大会、東北・北海道ブロック大会に毎年助成しております。今年度は申請のあった全国大会4大会、ブロック大会6大会、合計10大会を対象に助成を行いました。

北海道・東北地区特別支援学校肢体不自由教育校長・PTA会長合同研究協議会が、宮城県立船岡支援学校を主管校として、6月20日にオンラインで開催されました。

北海道・東北の特別支援学校20校から46名の管理職、PTA役員等の参加を得ての大会でした。秋田県立秋田きらり支援学校の新井敏彦校長より演題「北海道・各県の特別支援学校としての学校運営と諸課題」で、北海道旭川養護学校の新崎弘恵PTA会長より演題「我が校のPTA活動と諸課題について」で話題提供を行つていただいた後で、各校の取組や課題について意見交換が行われました。

後半には、宮城教育大学の寺本淳志准教授より演題「重度肢体不自由児のICT活用～ご家庭での長期間における実践から～」で講演をいただきました。1日の日程でしたが、大変密度の濃い有意義な研究協議会となりました。

研究大会の開催は、教職員の皆さまの研究成果等を、多くの教職員の皆さまと共有できる大変貴重な機会となります。今後も教職員の皆さまが安心して発表できる機会を持てるように、弘済会として助成を行つてまいります。

令和5年度(第5回)北海道・東北地区特別支援学校 肢体不自由教育校長・PTA会長合同研究協議会 - 宮城大会 - 開催要項
【宮城県立船岡支援学校 高等部生徒作品「輝く未来」】
開催日 令和5年6月20日(火) 会場 各学校(オンライン) 主 催 宮城県立船岡支援学校、宮城県立船岡肢体不自由教育研究会 北海道・東北地区特別支援学校肢体不自由特別支援学校PTA連合会 後 援 宮城県特別支援学校教員会 宮城県特別支援学校校長会 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会 主管校 宮城県立船岡支援学校

スクールパック贈呈事業

弘済会宮城支部は、2022年度に創立70周年を迎えました。その記念事業として2021年度から4年間にわたり県内の小・中・高・特別支援のすべての学校に、8万円相当の教材・教具を贈呈しております。一昨年度、昨年度は公立・私立の小学校360校に、今年度は公立・私立の中学校205校を対象にスクールパックを贈呈しました。

今回は、助成対象校のひとつである登米市立佐沼中学校を紹介します。



電子ホイッスルとマーカーを用いた体育の授業

登米市立佐沼中学校は登米市の中心部に位置している、全校生徒421名の学校です。「自主・責任・友情」を校訓とし、「学びを大切にし、共に高まり合うことができる、心豊かな生徒の育成」を目指し、日々の教育活動に取り組んでいます。また、コミュニティ・スクールとして、地域と連携した総合防災訓練の実施など、地域とともにある学校づくりに取り組んでいます。



両面発表ボードを活用した学習活動

スクールパック贈呈事業で贈呈された両面発表ボードは、各教科におけるグループごとの話合いや発表などで、電子ホイッスルとマーカーは、体育の補強運動や動きづくりで、積極的に活用しています。

2024年度は、高等学校、特別支援学校及び中等教育学校（高校相当）を対象に贈呈いたします。Aパック40種類、Bパック20種類の中から、Aパックであれば2種類、Bパックであれば1種類を選択していただきます。選考委員会で審議の後、希望のパックを学校にお届けいたしますので、該当する学校の担当の先生は、忘れずに次年度での申請をお願いします。

教育団体研究助成事業

県内では様々な教育団体が宮城の教育振興のために活動しています。今年度は、宮城県小学校長会、仙台市小学校長会、宮城県中学校長会、仙台市中学校長会、宮城県高等学校長協会、宮城県公立高等学校事務職員協会、仙台市立学校事務研究会、宮城県高等学校教頭・副校長会等を含めた33団体への助成を行っています。

宮城県高等学校教頭・副校長会から、助成に対する御礼をいただきましたので、ご紹介いたします。

様々な社会的变化に伴い、教育界を取り巻く諸問題は山積しております。その中で、教頭・副校長職に課せられる課題や期待に応えるため、平成15年3月より冊子「校務運営Q&A」を発行しております。後に教頭・副校長先生方からの要請に応じてCDも併せて発行し、現在に至っています。発行の目的は、本県の実情を踏まえた、即時の対応に便利な学校管理運営のハンドブックを作成することや、教頭・副校長会が蓄積してきた情報や資料等を集約、共有しつつ、次代の教頭・副校長職に引き継いでいくこと等です。

現在、9名の教頭が委員となって第11次改訂版の編集作業を行っており、県内の教頭・副校長先生方からご意見をいただきながら、教育情勢や根拠となる法規等の調査研究をすすめております。弘済会からの助成金は、「校務運営Q&A」の編集や印刷費用等に充当させていただいております。これからも高等学校教頭・副校長会として教育活動の諸課題の解決に資することができるよう、「校務運営Q&A」の編集を行ってまいります。



校務運営 Q & A

教育研修助成事業

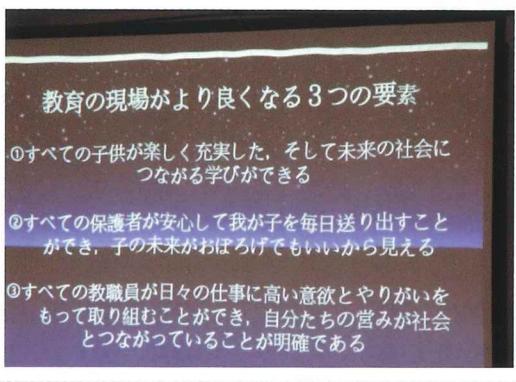
弘済会宮城支部では、毎年約100校の小・中・高・特別支援学校を対象に1校当たり7万円を助成し、学校独自の研究や研修を支援しています。今年度は申請のあった公立・私立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の計101校に助成を行いました。今回は助成対象となった仙台市立田子中学校からの成果報告を紹介します。

宮城支部の研修助成事業を活用し、11月2日（木）、横浜創英中学・高等学校副校長の本間朋弘氏の講演会を開催しました。保護者や地域の方の他、他校からの参加も募ったことで計50名程の参加者による研修となりました。

講演会の主な内容は「学校改革」でした。「学び方改革」「働き方改革」の二部構成でしたが、本間氏は「学び方改革」「働き方改革」のそれぞれは、あくまでも「学校改革」の手段であるとおっしゃっていました。（詳細について興味のある方は

田子中教頭までご連絡を、とのことです。）

本来、学校はより良い社会を創造するために教師が「先」を見据え、子どもたちと共に学ぶ場です。のために本質となる「子どもの主体性を育む（取り戻す）こと」そして「多様な人とそして社会の中で、当事者意識を持ち、対話を通してより良いものとなるようにしていく」ということを、学校の教職員全員が最上位目標として取り組んでいかなくてはならない、と強く感じさせられた、大変有意義な研修になりました。



講師の本間朋弘氏

教育図書贈呈事業

弘済会宮城支部として、これまで年間100校に図書を贈呈して参りましたが、70周年記念事業の一環として2020年度から毎年加算して贈呈しており、ここ3年間は毎年160校に10万円相当の図書を贈呈いたしました。学校からはたくさんの申請があり、それぞれの学校が図書を活用した教育活動を重要視していることが強く感じられました。助成対象校の宮城県白石高等学校からいただいた御礼の言葉を紹介します。

宮城県白石高等学校は、宮城県南の白石市にあります。2010（平成22）年4月に、ともに約100年の伝統を誇る宮城県白石高等学校（男子校）と宮城県白石女子高等学校が統合し、男女共学校として開校しました。県南の進学拠点校として知られる一方、各種学校行事や部活動等も盛んで、生徒達は多彩な高校生活を送っています。読書傾向には幅があり、直木賞受賞作や人文系の専門書を読みこなす生徒もいれば、本はあまり読んだことがない、という生徒も。そこで、いずれの層にも利用してもらえるように、表示を含めた館内レイアウトを刷新しました。各種展示コーナーの中には図書委員による展示もあり（例：先生のイチオシ本）、読書への興味を上手にリードしています。今回は、十代向けのノンフィクションシリーズを主にご恵贈いただきました。疑問や悩みが生じた時に、本もその解決の一助となりうることを、生徒に再認識してもらう良い契機になっています。



新着図書コーナー



弘済会からの寄贈図書を見る生徒

地域活動支援事業

弘済会では、各教育委員会からご推薦をいただき、教育の向上発展に重要と認めた学校外の特色ある研究や継続的な活動に対しても助成を行っています。今年度は3団体に助成させていただきました。ここでは仙台市教育委員会から推薦のあった**大沢田植踊保存会**から活動に関する報告をいただきましたので、ご紹介します。

大沢田植踊保存会は、毎月第1、第3の金曜日の18~21時に仙台市泉ヶ丘コミュニティーセンターにて定期練習を実施しています。会員数は現在39名で、下は4才から上は91才までと幅広い年齢層の会員構成となっており、子ども達と共に次世代へ「政宗が育んだ“伊達な文化”大沢の田植踊」を継承するという信念のもと、毎回20~25名の会員が練習に参加しています。



練習の様子



夏祭り

会員一同、「政宗が育んだ“伊達な文化”大沢の田植踊」の伝統を400年で絶やしてたまるか！の気概を持って、これからも力を合わせて頑張ります。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、大沢田植踊を大勢の皆さんに披露できる機会が増え、7月の泉ヶ丘夏まつりを皮切りに、9月には山形県東根市Lookforエブリイ伝承祭に参加するなど、これまでに披露する機会を6度得ることができました。今年2月には第36回民俗芸能のつどいへの出演が決まります。



発表の様子

教育実践研究論文助成事業

今年度は、公募締切の8月23日までに、学校部門43点、個人部門105点、合計148点の応募をいただきました。3次にわたる審査を経て、「第52回（2023年度）教育実践研究論文」の各賞が下記のとおり決定しました。詳細は、「きょうこう通信 Vol.35」に掲載しておりますのでご覧ください。

受賞者には、最優秀賞学校部門に30万円、個人部門に20万円、優秀賞学校部門に15万円、個人部門に10万円、優良賞学校部門に7万円、個人部門に5万円、入選学校部門に3万円、個人部門に2万円の助成を行いました。

	最優秀賞	優秀賞	優良賞	入選	合計
学校部門	1	2	5	35	43
個人部門	1	7	9	88	105
合計	2	9	14	123	148

また同じ学校から5点以上の教育実践研究論文の応募をいただいた場合は、学校賞として5万円分の図書カードを贈呈しております。今年度の学校賞受賞校は以下の4校です。

大和町立吉岡小学校

大和町立小野小学校

栗原市立志波姫小学校

石巻市立鹿又小学校

ここ3年間は、新型コロナウイルスの感染防止等の観点から表彰式を実施しておりませんでしたが、最優秀賞、優秀賞を受賞した学校および個人と、学校賞を受賞した4校をお招きして、12月26日（火）にホテル白萩を会場に4年ぶりの表彰式を実施いたしました。

教育文化講演会助成事業

仙台市小・中学校教育研究会との共催で教育文化講演会を開催しています。ここ3年間は新型コロナウイルスの感染拡大の影響から中止しておりました。今年度は720名の皆さんにご来場いただき、下記のとおり開催することができました。

期日：8月18日（金）

会場：仙台サンプラザホール

講師：脚本家 内館 牧子 氏

演題：「私が出会った日本の子供 世界の子供」

内館氏の講演は、「食」「学」「震災で見た若い力」の3点を柱に進みました。

「食」では、内館氏が出会った海外の子供と日本の子供の姿を比較しながら、日本の子供が直面している懸念や課題について述べられました。「一口のスプーンが人を生かす」という内館氏の含蓄のある言葉はとても心に響きました。

「学」では、内館氏が中国で見た初等教育の現場から、未来を生きるグローバルな人材の育成における視点について語られました。母国に伝わる文化・芸能を学ぶこと、人間としての礎を固めることの話に、聴く側として思わず頷いたところでした。

「震災で見た若い力」では、明治天皇の和歌に触れ、普段は表出せずとも震災という非常時に表出した若者の底力を、学校教育・家庭教育の賜物と評価されておりました。それは、教職員に対してのとても大きなエールでした。

内館氏の人柄が伝わる、心温まる講演会でした。



2024年度 教育文化講演会について

期日：8月19日（月） 14:00～16:00 会場：仙台サンプラザホール

講師：生島ヒロシ氏 演題：「チャレンジから未来が見える」

お楽しみに！

(公財)日本教育公務員弘済会 主催事業

学校応援キャンペーンについて

2023年7月1日～8月31において、学校管理職（校長、副校長、教頭、事務室長 等）の皆さんを訪問させていただき、日頃の弘済会事業へのご協力に御礼を申し上げるとともに、学校に役立つ製品が抽選で当たる「学校応援キャンペーン」を開催いたしました。

2か月間の応募期間で、全国14,173校から20,078件の応募をいただきました。本当にありがとうございました。県内の学校では以下の4校が当選しました。学校の教育活動に役立てていただければ幸いです。

次年度もこの企画を開催する予定ですので、各学校からの多数のご応募をお待ちしております。

宮城県当選 4校

A賞：看板兼非常用ストレッチャー

仙台市立中田中学校

B賞：大容量ポータブル電源

仙台市立向陽台中学校

C賞：学校用ワンタッチタープテント

気仙沼市立面瀬中学校

D賞：スポットクーラー

宮城県佐沼高等学校



面瀬中学校での贈呈式

教弘保険にご加入の教職員の皆さん、申請忘れはありますか？

健康保持・増進補助事業



○人間ドック

【補助金額】

1泊2日：実費負担額（上限 10,000 円）
日帰り：実費負担額（上限 5,000 円）

○婦人科検診

【補助金額】

乳がん検診：実費負担額（上限 5,000 円）
子宮がん検診：実費負担額（上限 5,000 円）

※教弘保険加入者が対象となります。

※受診後1年以内で、同一検診に対して1回限りの補助となります。

・窓口の負担額が記載された領収証の写し（内訳が記載されたもの）が必要になります。

・脳ドック・PET検診等のオプション検診、医療保険適用の検査や雇用時健診等は対象外です。

祝い品・記念品贈呈事業



○結婚祝

【お祝い】10,000円のクオカード

【備考】夫婦それぞれが加入の場合は、双方が申請可



○出産祝

【お祝い】10,000円のクオカード

【備考】夫婦それぞれが加入の場合は、双方が申請可
双子の場合は、それぞれ申請可

※教弘保険加入者が対象となります。

※入籍・出産日から1年以内（新規加入者は2年以内）に申請してください。

生活応援企画プレゼントキャンペーンに多数のご応募ありがとうございました

今年度は、教弘保険加入者を対象に、映画館で使えるギフトカード3種と図書カード（各5000円相当）から一つを選んで応募いただく生活応援企画（応募期間 9月1日～11月30日）を開催し、非常に多くの加入者の皆さまから応募していただきました。本当にありがとうございました。当選者の皆さまには、賞品が届いている頃かと思います。公務多忙とは存じますが、映画観賞や読書で、心豊かなひと時をお過ごしいただければ幸いです。

セカンドライフセミナーのご案内

教職員の皆さまの退職後の生活設計のお役に立てるよう、今年度はオンライン開催も含めて計15日程でセミナーを開催いたしております。特に今年度は、「年金早わかり講座」「マネープランセミナー」「セカンドライフセミナー」とプログラムを整理して企画しました。既に14日程が終了し、たくさんの教職員の皆さまにご参加いただきました。

残るところ最後の1日程（プログラムはマネープランセミナーです）となりましたので、セカンドライフの安心・充実のために、是非ご参加くださいようご案内申し上げます。皆さまのご都合に合わせて、お一人でも、配偶者の方とご一緒でも、また弘済会会員に限らず、ご参加ください。ご退職間近の方でなくとも参加可能です。皆さまのご参加をお待ちしております。なお、ご参加の皆さまには粗品を準備しております。

期日	時間	会場
2024年2月3日（土）	10:00～12:00	ホテル仙台ガーデンパレス

参加ご希望の方は、共済事業（提携保険事業）提携会社 ジブラルタ生命保険株の担当LCにお申し込みください。

教育公務員にも定年延長制度の適用が始まりました。教職員のみなさまご自身やご家族のライフプランを考えると、「いつ」「どれだけの期間」「どれくらいの金額」が必要になるのか、生活保障のための保険や資産形成に関するイメージはできていらっしゃいますか？

20代

教職員として就職、そして結婚。**死亡保障**とともに**不慮の事故**にも対応する**保障（高度障害等）**を考えましょう。



30代

子どもが生まれ**家族への責任**が重くなります。子どもへの教育資金、住宅購入資金等を考え始めるこの年代は**必要保障額が大きくなります。**



40代

30代の時より教育・住宅資金等**更に資金が必要**。加齢に伴い**医療保障の充実**を考えなければなりません。その他にも**老後資金**についてもそろそろ準備を始めましょう。



50代～60代

子どもへの教育資金がピークを迎え、**老後資金準備**も重要な年代です。加齢に伴う健康不安から、**医療保障の必要性**も高まり、夫婦どちらかの親の**介護**に取り組む場合もあります。



**ジブラルタ生命の学校担当LCを有効に活用して
必要保障額や教職員の皆様お一人お一人に最適なプランを確認してみましょう。**

ライフプラン・コンサルタント・サービス

遺族年金の受取額を知りたい
必要保障額はいくらなのか

リタイアメント・プランニング・サービス

年金開始年齢や受取額を知りたい
いくらぐらいの資金準備が必要なのか

2022年4月より、日教弘会員で34歳以下の教職員の皆さんにご加入いただける 『ユース教弘保険』が新しくなり、よりご加入いただきやすくなりました！

『ユース教弘保険』は（公財）日教弘の共済事業（提携保険事業）商品です。



ユース教弘保険の保険料を引き下げました！

※保険金額1,000万円あたりの月払保険料（災害割増特約300万円を含む）は、1,513円になります。
※既にご加入になられている方も、2022年4月からユース教弘保険の保険料が引き下げられました。
※ユース教弘保険の保険料引き下げ対象は、39歳（保険年齢）以下満了契約となります。



ユース教弘保険の保障期間を一律39歳まで延長しました！

※保障期間が39歳（保険年齢、以下同じ）満了まで延長・統一されます。
※既にご加入になられている方で、満了時年齢が38歳以下の方も保障期間が延長されます。

「ユース教弘保険」の5つの特長

- ①集団契約特約を付加することにより、低廉な保険料で死亡・高度障害時の保障を得られるプランです。
- ②不慮の事故などの災害による死亡・高度障害時はさらに保障が上乗せになります。
- ③ご加入時の年齢や性別に関わらず保険料は一律です。
- ④39歳満了時に加入保険金の範囲内で、健康状態に関わらず、新教弘保険へ移行することができます。
- ⑤契約者配当金は、公益財団法人日本教育公務員弘済会の教育振興事業等に使われております。

共済事業（提携保険事業）提携会社

ジブラルタ生命保険株式会社

教職員のお客様

0120-37-9419 (通話料無料)

本社／〒100-8953 東京都千代田区永田町2-13-10

ご加入例 (24歳男性)



宮城支部の個人情報保護方針（プライバシーポリシー）については、当支部Webサイト（<https://nikkyoko-miyagishibu.jp/>）をご覧ください。



編集
発行

公益財団法人 日本教育公務員弘済会宮城支部
株式会社 宮城教弘

〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5 オークツリー花京院 3階 TEL(022)346-1525 FAX(022)346-1528

■印刷：株式会社 東北プリント

UD
FONT